

## 高校生における学校内不安に関する研究

### —高校生用不安検査の開発—

教育方法講座 荒木 紀幸

兵庫県立姫路東高等学校 武中 みゆき

#### 1. 問題と目的

本研究は、学校における不安やストレスを扱った一連の研究の一つである（荒木・小原<sup>\*1</sup>，1990，荒木・井上<sup>\*2</sup>，1991，荒木・牧田<sup>\*3</sup>，1995）。今日、登校拒否の現象は広く社会に定着し、いまや校内暴力・非行・いじめ・無気力とともに、大きな社会問題となっている。しかも、病理行動を呈さないまでも、一般のいわゆる普通の生徒にもこれらの問題は顕在していると言われている。これらの問題行動に関してこれまでは、その問題性を個々の子供に求め、生活指導や臨床的観察などが行われてきた。もちろん、子供のパーソナリティーや生育歴も影響しているが、児童や生徒は一日の大半を学校で過ごしており、しかも、発達における最も重要な時期をほとんどの生徒が12年間も学校に属している。家庭においても、子供の学校における評価が一番の関心事になっており、成績や学歴が、親子関係を歪めているといっても過言ではない。しかし、学校が青少年を教化し、社会化する役割を担っている以上、学校環境のストレスをなくすことが望ましいかどうかは議論の余地のあるところである。

安藤（1984）<sup>\*4</sup>が、「学校生活におけるストレスを適度に抑えることができれば、そこで生活をする児童生徒ならびに教職員は、ストレスへの対処のために心身のエネルギーを浪費する必要もなく、それだけモラルや教育的成果を向上させることができるであろう」と述べているように、少なくとも、子供たちにとって有害なストレスや不安を軽減し、学校を学習や自己形成が行われやすい環境にすることが大切である。そのためにも、学校における不安やストレスについて客観的に査定することが、児童生徒の健康や学業などの向上にとって、不可欠な重要課題であると考えられる。

学校生活の実践場面における不安やストレスを扱った研究については、小学生における学校内不安尺度（井上，1989）<sup>\*5</sup>，中学生における学校内不安尺度（牧田，1992）<sup>\*6</sup>などがある。いずれも，TASC（児童用テスト不安尺度 Mandler & Sarason, 1958），CSQ（児童用学校質問紙 Phillips, B. 1978）を基にして作成されているが，テスト不安だけでは網羅できない学校生活の多

様な状況における不安を測定している。

ところで、テスト不安の学業成績に及ぼす妨害効果に関しては、サラソン (1958) \*<sup>7</sup>をはじめとする研究において、両者は負の関係にあることが確かめられている。荒木・井上 (1988) \*<sup>8</sup>は、学校内不安尺度と学業成績との間に有意な負の相関 (-.217) ,山本 (1986) \*<sup>9</sup>は、児童用テスト不安尺度 (T A S C) と学業成績との間に負の相関 (-.34) を得ており、さらに、荒木 (1988) \*<sup>10</sup>は、高校生について、青年版テスト態度検査 (T A I : Test Anxiety Inventory, Spierberger, 1980) との間に負の相関 (-.27~- .41) を得ている。

下山 (1985) \*<sup>11</sup>は、達成動機づけの理論において、成功動機は達成傾向を促進し、失敗回避動機は達成傾向を抑制し、両者のいずれがより強いかによって、課題達成への意欲が決定されると述べている。そして、失敗回避動機は、学校生活の始まりとともに増加する、評価される経験に強く関係しており、評価不安あるいはテスト不安ともいわれるとしている。

一方、不安は学習を妨げるという研究と並行して、学習を促進する不安の存在も指摘されてきた。Alpert & Haber (1960) \*<sup>12</sup>は、促進性不安 (A A T +) と減弱性不安 (A A T -) の両方を測定できる A A T (Achievement Anxiety Test) を作成している。また、Yerkes & Dodson (1980) により、適度な不安が行動を促進することが示唆されている (山本, 1992) \*<sup>13</sup>。荒木 (1993) \*<sup>14</sup>も「不安は、その種類や程度にかかわらず常に有害に働くとはいえない」と不安の促進面を認めている。

学校は生徒の発達を援助する役割がある。生徒は「伸びる」ために学校へ行っているのに、その学校で希望や期待を失わせている現実、逆転現象といえる。伸びることよりも勝つことに学習のねらいがおかれている限り、生徒には常に不安がつきまとい、学校生活において、挫折・孤独の危険にさらされている。適度な不安は生徒の発達を促進するが、過度な不安は、学習効果を低下させ、やがては学力も低下していく。不安を克服するだけの力が身につけば、不安も次のステップへのバネになるが、不安が独走すると様々な問題行動が生じる。そこで、高校生の不安や自己認識を正確に把握し、高校の現場で作動している見えざるメカニズムや意図せざる結果を顕在化させていくことが重要な課題となってくる。

そこで、本研究では、「高校生用学校内不安検査」を作成し、項目分析と信頼性の検討を行うことを目的とする。この検査の開発によって、教師は生徒の

特性を客観的に理解し、学習指導や生徒指導に役立てることができる。また、生徒においても、自己理解が深まり、自己改革の契機となることが期待できる。

## 2.方法

### 2.1.検査項目の作成

検査の下位カテゴリーを、①テスト不安②成績と進路に関する不安③友達との関係における不安④先生との関係における不安とした。質問項目は、予備調査における項目分析、因子分析の結果を参考にして、計33項目で構成し、以下の4件法で回答させた。

- |                           |
|---------------------------|
| 0 : ほとんどない (ほとんどあてはまらない)  |
| 1 : ときどきある : (少しあてはまる)    |
| 2 : しばしばある (かなりあてはまる)     |
| 3 : ほとんどいつもある (ほとんどあてはまる) |

### 2.2.被験者

被験者は、兵庫県・京都府の高等学校の生徒を対象とし、回収した回答用紙(マークシート)に記入もれ等無効な回答のなかった1616名を有効回答者とした。有効回答者の内訳は、Table1-1に示す通りである。

Table1-1 有効回答者の学年別内訳 (人)

学年 (学級数)	男子	女子	不明	合計
1年 (13)	225	250	30	505
2年 (12)	210	226	0	436
3年 (19)	323	352	0	675
合計	758	828	30	1616

## 3.結果と考察

### 3.1.学校内不安得点の分布

学校内不安得点(得点域:0~91)の平均は27.22、標準偏差は14.44であり、Fig.2-1に示すような分布が得られた。歪度は-0.60、尖度3.25であり、ほぼ正規分布に近い状態であるといえる。したがって、この学校内不安得点は十分に個人差を反映しているといえる(N=1616)。

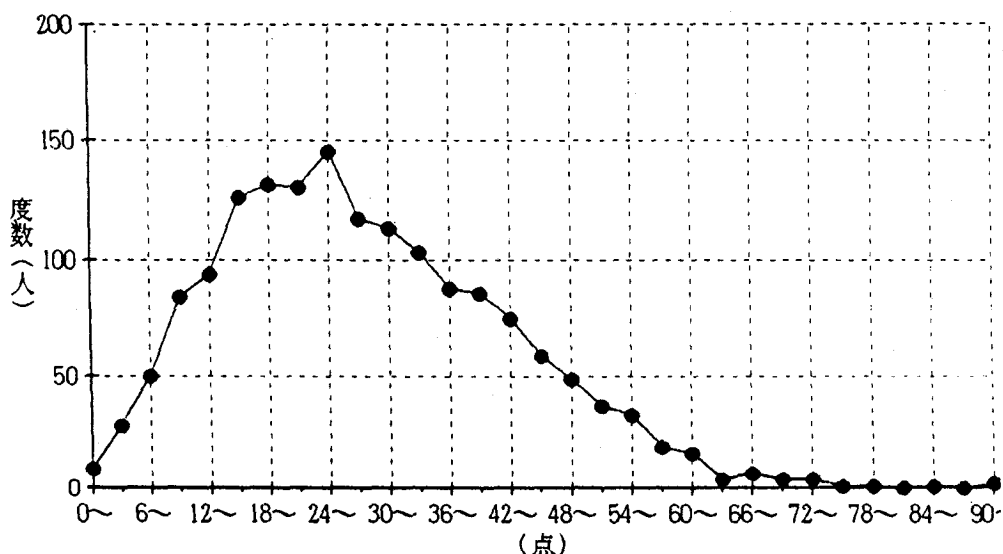


Fig.1-1 学校内不安得点度数分布

### 3.2.項目分析

質問紙の等質性、および各質問項目の識別性を検討するために、以下の項目分析をおこなった。

#### (1) 尺度の内的整合性の検討

質問紙を構成している項目全体の等質性を検討するために、Cronbachの $\alpha$ 係数を算出した。その結果、 $\alpha = .907$ であり、内的整合性は十分に高いことが確認された。

#### (2) 識別性の検討

##### ① 回答率

項目ごとの回答率をTable1-4に示す。

回答率から一般的な特徴をまとめておく。

テスト不安については、70%近くの生徒が不安を感じてはいるが、試験に専念できないほどの妨害的作用はないように思える。成績・進路に関する不安は比較的高く、14番の不安は85%の生徒が感じており、成績のことが常に脳裏から離れず、イライラしているといえる。友達との関係における不安については、19、22番などから、友達の視線を非常に気にしたり、集団から浮くことを恐れている様子がわかる。また、表面的なつきあいは求めるが、心の深いところまで気持ちを通じ合わせることの少ない様子もうかがえる。先生との関係における不安を表出している生徒は少ないが、教師の何気ない一言で意欲を喪失する生徒も存在するということを謙虚に受けとめる必要がある。

## ② G-P 分析

被験者を学校内不安得点の上位群（上位25%）と下位群（下位25%）に分け、項目ごとにその平均の差をt検定し、識別性を検定した結果をTable1-5に示す。なお、表中のw記号の項目は、Welchの修正法を施したものである。G-P分析の結果、すべての項目に十分識別性があることが確認できた。

## ③ 項目-全体間相関

各項目の得点と総得点（その中には当該項目得点は含まれていない）の相関係数（項目-全体間相関（Pearsonの積率相関係数））を算出し、各項目の全体得点への寄与を検討した結果を、Table1-5に併記した。項目-全体間相関係数の大きさから、すべての項目に十分識別性があることが確認できた。

### 3.3. 下位カテゴリーの項目分析

下位カテゴリーについて、クロンバックの $\alpha$ 係数を算出した結果をTable1-2に示す。

Table1-2 下位カテゴリーの $\alpha$ 係数

	テスト	成績・進路	友達	先生
$\alpha$ 係数	.801	.813	.858	.722

$\alpha$  係数は比較的高く、カテゴリーごとの内的整合性も確認できた。

さらに、各下位カテゴリーごとに、各カテゴリー構成項目の得点とカテゴリー総得点（その中には当該項目得点は含まれていない）の相関係数（カテゴリー構成項目-カテゴリー全体間相関係数（Pearsonの積率相関係数））を算出した結果をTable1-3に示す。8番を除いて比較的高い識別性を確認できた。よって、下位カテゴリーごとの利用も支障がないといえる。

Table1-3 カテゴリー構成項目-カテゴリー全体間相関係数

テスト		成績・進路		友達		先生	
NO	r	NO	r	NO	r	NO	r
1	.530**	9	.507**	17	.276**	25	.476**
2	.544**	10	.460**	18	.513**	26	.495**
3	.559**	11	.529**	19	.503**	27	.566**
4	.425**	12	.554**	20	.379**	28	.344**
5	.577**	13	.463**	21	.588**		
6	.439**	14	.527**	22	.610**	33	.431**
7	.530**	15	.466**	23	.578**		
8	.189*	16	.492**	24	.347**		

有意水準 \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$

Table1-4 学校内不安検査の回答率

度数(%)

番号	質問項目	ほとんど ない	ときどき ある	しばしば ある	ほとんど いつもある
		0	1	2	3
(テスト不安)					
1	大事な試験だと、とても緊張してイライラしてしまいます。	29.27	45.98	16.09	8.66
2	試験勉強を十分にしていなくても、その場になると冷静でいられなくなってしまいます。	34.22	40.97	17.76	7.05
3	大事な試験を受けるまで、アレコレと思わずらいます。	27.10	36.20	24.44	12.25
4	試験が終わったあと、もうそのことを気にしないようにしようと思えますが、やはり気にしてしまいます。	26.36	35.33	21.10	17.20
5	成績のことが気になって、試験に専念できません。	63.49	27.17	7.12	2.23
6	試験のことをこんなに悩まずにおれたらよいのになと思います。	27.48	27.35	18.56	26.61
7	試験を受けながら、うまくいかなかった後のことをクヨクヨ悩めます。	38.99	35.46	15.59	9.96
8	大事な試験を受けていて、自分はク*メな人間だなと思います。	42.95	30.07	15.22	11.76
(成績・進路に関する不安)					
9	成績のことがいつも気になっています。	24.07	41.83	20.54	13.55
10	友達に成績が負けはしないかと、いつも気にしています。	36.51	40.10	15.35	8.04
11	勉強が難しくなり、どうしていいかわからず、イライラしています。	19.80	42.51	24.13	13.55
12	授業中、自分よりも他の人たちがよくわかっているような気がして、みじめな気持ちになります。	33.54	34.03	18.75	13.68
13	授業中、答えがわからないのにあてられるのではないかと、ヒ*クヒ*クしています。	19.12	36.32	24.26	20.30
14	今の成績では、志望校(志望の会社)に合格できないのではないかと不安になります。	14.17	24.63	25.68	35.52
15	将来のことを考えると、自分の今までの過ごし方をクヨクヨと悩むことがあります。	36.88	33.35	18.81	10.95
16	自分の成績のことを考えると、これから先のことが心配になり、勉強が手につかないことがあります。	52.23	29.52	11.94	6.31
(友達との関係における不安)					
17	授業中何か失敗をして、友達に笑われるのではないかと不安になります。	57.24	29.33	9.03	4.39
18	自分の意見を言うとき、みんなに反対されないかと心配になります。	52.97	33.42	8.97	4.64
19	友達が自分のことをどう思っているのか、気になります。	21.72	38.68	21.91	17.70
20	自分の容姿が気になります。	23.95	41.15	20.30	14.60
21	学校で仲間はずれにされないか、不安になります。	57.98	28.77	8.42	4.83
22	学校では、周囲に合わせるのに気を使いすぎて、リラックスできません。	55.63	32.30	8.23	3.84
23	友達から無視されているような気がして、みじめになります。	76.36	19.12	3.34	1.18
24	人が大勢いるとき、なかなかその雰囲気に参加できない方です。	45.05	33.91	12.13	8.91
25	引込み思案なので、学校でみじめな思いをすることが多いです。	68.07	23.33	5.88	2.72
26	心を置いて話せる友達がいません。	78.59	13.30	4.52	3.59
27	友達とその場はうまくやっていますが、気持ちが通じ合っていないように思います。	51.55	34.84	8.60	5.01
28	クラスの中で孤立しているような気がします。	75.37	17.08	4.64	2.91
(先生との関係における不安)					
29	先生が自分のことをどう思っているのか、気になります。	62.31	27.85	6.13	3.71
30	先生の前へ行くと、オト*オト*してしまいます。	64.98	26.42	6.00	2.60
31	廊下ですれちがったりするとき、先生から何か注意されないか、心配になります。	77.35	17.88	3.16	1.61
32	いつも先生から無視されているような気がして、みじめな思いをすることがあります。	87.50	10.02	1.67	0.80
33	先生から他の友達と公平に扱ってもらえていないような気がして、みじめな思いをすることがあります。	81.00	14.36	2.72	1.92

Table1-5 学校内不安検査のG-P分析と項目一全体間相関係数

番号	質問項目	平均	標準偏差	G-P分析(t検定)	項一全相関
(テスト不安)					
1	大事な試験だと、とても緊張してイライラしてしまいます。	1.04	0.89	t=19.28***	.438**
2	試験勉強を十分にしている、その場になると冷静でいらなくなってしまう。	0.98	0.90	t=19.86***	.456**
3	大事な試験を受けるまで、アルコールを飲まないと気が済まない。	1.22	0.98	t=24.54***	.505**
4	試験が終わったあと、もうそのことを気にしないようにしようと思えますが、やはり気にしてしまいます。	1.29	1.04	t=17.48***	.363**
5	成績のことが気になって、試験に専念できません。	0.48	0.73	t=18.52***	.457**
6	試験のことをこんなに悩まずにおれたらよいのと思います。	1.44	1.15	t=24.63***	.459**
7	試験を受けながら、うまくいかなかった後のことをクヨクヨ悩めます。	0.97	0.97	t=23.07***	.483**
8	大事な試験を受けていて、自分はクメな人間だなと思います。	0.96	1.03	t=21.82***	.468**
(成績・進路に関する不安)					
9	成績のことがいつも気になっています。	1.24	0.97	t=26.65***	.523**
10	友達に成績が負けはしないかと、いつも気にしています。	0.95	0.92	t=22.84***	.489**
11	勉強が難しくなり、どうしていいかわからず、イライラしています。	1.31	0.94	t=26.79***	.555**
12	授業中、自分よりも他の人たちがよくわかっているような気がして、あじめな気持ちになります。	1.13	1.03	t=28.40***	.592**
13	授業中、答えがわからないのにあてられるのではないかと、ヒクヒクしています。	1.46	1.02	t=24.71***	.505**
14	今の成績では、志望校(志望の会社)に合格できないのではないかと不安になります。	1.83	1.07	t=21.48***	.411**
15	将来のことを考えると、自分の今までの過ごし方をクヨクヨ悩むことがあります。	1.04	1.00	t=23.65***	.488**
16	自分の成績のことを考えると、これから先のことが心配になり、勉強が手につかないことがあります。	0.72	0.90	t=24.47***	.538**
(友達との関係における不安)					
17	授業中何か失敗をして、友達に笑われるのではないかと不安になります。	0.61	0.83	t=21.82***	.523**
18	自分の意見を言うとき、みんなに反対されないかと心配になります。	0.65	0.83	t=21.04***	.517**
19	友達に自分のことをどう思っているのか、気になります。	1.36	1.01	t=26.46***	.539**
20	自分の容姿が気になります。	1.26	0.98	t=22.14***	.459**
21	学校で仲間はずれにされないか、不安になります。	0.60	0.84	t=22.41***	.518**
22	2校では、周囲に合わせるのに気を使わず、リラックスできません。	0.60	0.80	t=19.91***	.478**
23	友達から無視されているような気がして、あじめになります。	0.29	0.59	t=17.40***	.498**
24	人が大勢いるとき、なかなかその雰囲気になじめない方です。	0.85	0.95	t=15.39***	.358**
25	引っ込み思案なので、学校であじめな思いをすることが多いです。	0.43	0.73	t=17.54***	.486**
26	心を置いて話せる友達がいません。	0.33	0.73	t= 9.68***	.236**
27	友達とその場はうまくやっていますが、気持ちが通じ合っていないように思います。	0.67	0.83	t=17.62***	.417**
28	クラスの中で孤立しているような気がします。	0.35	0.70	t=12.54***	.341**
(先生との関係における不安)					
29	先生が自分のことをどう思っているのか、気になります。	0.51	0.77	t=19.30***	.483**
30	先生の前へ行くと、オトオトしてしまいます。	0.46	0.72	t=15.96***	.392**
31	廊下ですれちがったりするとき、先生から何か注意されないか、心配になります。	0.29	0.60	t= 9.75***	.260**
32	いつも先生から無視されているような気がして、あじめな思いをすることがあります。	0.16	0.46	t=11.02***	.365**
33	先生から他の友達と公平に扱ってもらえないような気がして、あじめな思いをすることがあります。	0.26	0.60	t=11.88***	.332**

有意水準 \*\*\*p&lt;.01

## 3.4. 因子分析

学校内不安検査の因子構造を明らかにするために、33項目について因子分析を行った。因子分析は、SMCを共通性の初期推定値とした反復主因子法で行い、Varimax回転を施し4因子を抽出した。Table1-8は、その因子負荷行列である。

## (1) 因子の解釈

第1因子は、テスト不安や成績・進路に関する不安であるから、「評価不安」と命名した。第2因子は、友達からの疎外感や孤独に関する不安であるから、「疎外感・孤独感」と命名した。第3因子は、他者の視線を意識しすぎることから「自信欠乏に伴う不安」と命名した。第4因子は、「先生に関する不安」と命名した。

なお、21番は第2因子と第3因子の両方に負荷しているが、第3因子に加えた。13番も第1因子と第3因子の両方に負荷しているが、第1因子に加えた。

## (2) 因子ごとの分析

抽出された4因子の平均をTable1-6に示す。

Table1-6 因子ごとの平均

	平均(1項目あたり)	標準偏差
評価不安	17.91 (1.12)	9.15
疎外・孤独	4.46 (0.64)	3.28
自信欠乏	3.52 (0.70)	3.69
先生不安	1.67 (0.33)	2.16

次に因子間の相関を求めた結果をTable1-7に示す。

Table1-7 因子間の相関

	評価	疎外	自信欠乏	先生
評価不安	1.00			
疎外・孤独	.519**	1.00		
自信欠乏	.320**	.528**	1.00	
先生不安	.401**	.440**	.373**	1.00

有意水準 \*  $p < .01$

「疎外感・孤独感」と「自信欠乏」は中程度の相関が認められ、高校生における自信のなさは、円滑な友達関係と密接にかかわり合っていることがわかる。友達を作れない、親友をもてないことは、自己像を修正する機会をもちにくくするだけではなく、他者についても歪んだ考えや感情をもち、不安感や不信感を育ててしまいかねない。逆に、仲間から承認されることは、自己の存在価値の確認となり、何物にもかえがたい自信となる。

また、評価不安と疎外感・孤独感とは中程度の正の相関があり、場面を越えて内在する不安の存在を確認することができる。

このように、設定した下位カテゴリーのテスト不安と成績・進路に関する不安は一つにまとめられ、友達に関する不安は2因子に分離したが、「成績」

「疎外感・孤独感」「自信欠乏」「先生不安」という4因子が抽出された。これらは、小学生、中学生の学校内不安検査の因子構造と対応しており、因子構造の面において尺度の因子的妥当性が確認された。



#### 4.要約

高校生における学校内不安を測定するための検査項目を作成した。それらは、学校生活での不安について、テスト不安、成績・進路に関する不安、友達に関する不安、先生に関する不安の4つの下位カテゴリーで構成されている。この研究では、高校生（1～3年）1616名を被験者とし、尺度の標準化について検討した。

信頼性係数、各質問項目の回答率、G-P分析、項目-全体間相関を検討したところ、学校内不安検査の信頼性が確認された。また、尺度を構成する33項目に関する評定値の合計を学校内不安得点としたところ、正規分布に近い度数分布を得た。

次に、因子分析（反復主因子法、Varimax回転）を行った結果、第1因子「評価不安」、第2因子「疎外感・孤独感」、第3因子「自信欠乏に伴う不安」、第4因子「先生に関する不安」の4因子構造が得られた。これらは、小学生、中学生のの学校内不安の3因子構造とほぼ対応しており、因子構造の面からも尺度の内的妥当性が確認された。

以上の分析によって、この学校内不安検査は個々の生徒について、学校生活の個人的な情報を提供しており、広く学習指導や生徒指導、あるいは生徒自身の自己啓発に活用できるものと期待できる。

#### 引用文献

- \*<sup>1</sup> 荒木紀幸・小原政秀 1990 教師ストレスに関する基礎的研究—教師ストレス検査の開発— 学校教育研究 第2巻 Pp.1-18.
- \*<sup>2</sup> 荒木紀幸・井上智博 1991 小学生における学校内不安に関する研究—学校内不安尺度の開発— 学習評価研究別冊Ⅲ Pp.74-111.
- \*<sup>3</sup> 荒木紀幸・牧田明典 1995 中学生用学校内不安検査の標準化に関する基礎的研究—項目分析と信頼性の検討— 兵庫教育大学研究紀要 第15巻第1分冊
- \*<sup>4</sup> 安藤延男編 1985 学校社会のストレス 垣内出版 p.44.
- \*<sup>5</sup> 井上智博 1989 小学校における学校内不安測定に関する研究 兵庫教育大学修士論文
- \*<sup>6</sup> 牧田明典 1992 中学生の学校生活における不安に関する基礎的研究 兵庫教育大学修士論文
- \*<sup>7</sup> Sarason, S. B., Davidson, K. S., Frederick, L. F., & Waite, R. R. 1958  
Test anxiety Scale for children. Child Development, 29, Pp.438-447.

\*<sup>8</sup> 前掲書\*<sup>2</sup>

\*<sup>9</sup> 山本正 1986 学業成績に影響を及ぼす人格特性に関する研究

兵庫教育大学修士論文

\*<sup>10</sup> 荒木紀幸 1989 青年版テスト態度検査(TAI)の標準化に関する研究

(2) 日本教育心理学会第31回総会発表論文集 Pp.204-205.

\*<sup>11</sup> 下山剛 1985 学習意欲の見方・導き方 教育出版 Pp.9-14.

\*<sup>12</sup> Alpert, R. & Haber, N 1960 Anxiety in Academic Situations.

Journal of Abnormal and Psychology Pp.207-215.

\*<sup>13</sup> 山本誠一 1992 青年期における不安の二側面に関する実証的研究

心理学研究 第63巻 第1号 Pp.8-15.

\*<sup>14</sup> 荒木紀幸 1993 新時代の教育の方法を問う 北大路書房 p.110.

Table1-8 学校内不安検査の因子分析

番号	質問項目	F1	F2	F3	F4	h <sup>2</sup>
9	成績のことがいつも気になっています。	.607	.058	.154	.067	.400
3	大事な試験を受けるまで、アレコレと思わずらいます。	.600	.114	.092	.045	.383
5	成績のことが気になって、試験に専念できません。	.595	.035	.008	.133	.373
7	試験を受けながら、うまくいかなかった後のことをクヨクヨ悩めます。	.593	.071	.073	.068	.367
1	大事な試験だと、とても緊張してイライラしてしまいます。	.569	.058	.060	.026	.331
2	試験勉強を十分していても、その場になると冷静でいらなくなってしまいます。	.551	.134	.025	.058	.325
11	勉強が楽しくなり、どうしていいかわからず、イライラしています。	.548	.063	.261	.142	.393
6	試験のことをこんなに悩まずにおれたらよいのと思います。	.548	.039	.117	.073	.321
16	自分の成績のことを考えると、これから先のことが心配になり、勉強が手につかないことがあります。	.542	.130	.177	.130	.359
12	授業中、自分よりも他の人の方がよくわかっているような気がして、おぼろげな気持ちになります。	.510	.107	.304	.227	.416
8	大事な試験を受けていて、自分はクマんな人間だなと思います。	.484	.081	.129	.170	.286
4	試験が終わったあと、もうそのことを気にしないようにしようと努めますが、やはり気にしてしまいます。	.475	.028	.049	.038	.230
10	友達に成績が負けはしないかと、いつも気にしています。	.458	.079	.266	.096	.296
15	将来のことを考えると、自分の今までの過ごし方をクヨクヨと悩むことがあります。	.441	.149	.219	.100	.275
14	今の成績では、志望校(志望の会社)に合格できないのではないかと不安になります。	.439	.023	.201	.051	.237
27	友達とその場はうまくやっていますが、気持ちが遠く合っていないように思います。	.093	.644	.129	.133	.458
25	引っ込み思案なので、学校でおぼろげな思いをすることが多いです。	.145	.632	.237	.105	.305
24	人が大勢いるとき、なかなかその雰囲気になれない方です。	.064	.619	.150	.031	.410
23	友達から無視されているような気がして、おぼろげになります。	.141	.588	.273	.170	.469
28	クラスの中で孤立しているような気がします。	.034	.582	.071	.188	.381
22	学校では、周囲に合わせるのに気を使わずで、リラックスできません。	.162	.539	.328	.047	.427
26	心を聞いて話せる友達がいません。	.027	.537	.067	.107	.305
19	友達が自分のことをどう思っているのか、気になります。	.197	.246	.666	.104	.553
20	自分の容姿が気になります。	.214	.153	.519	.107	.350
18	自分の意見を言うとき、みんなに反対されないかと心配になります。	.201	.303	.519	.130	.418
17	授業中何か失敗をして、友達に笑われるのではないかと不安になります。	.270	.173	.478	.221	.381
21	学校で仲間はずれにされないか、不安になります。	.157	.459	.470	.117	.470
13	授業中、答えがわからないのにあてられるのではないかと、ヒクヒクしています。	.370	.084	.375	.185	.319
32	いつも先生から無視されているような気がして、おぼろげな思いをすることがあります。	.077	.211	.014	.786	.670
33	先生から他の友達と公平に扱ってもらえていないような気がして、おぼろげな思いをすることがあります。	.106	.165	.052	.608	.411
29	先生が自分のことをどう思っているのか、気になります。	.237	.138	.294	.467	.380
30	先生の前へ行くと、オトオトしてしまいます。	.163	.190	.171	.424	.272
31	廊下ですれちがったりするとき、先生から何か注意されないか、心配になります。	.110	.038	.125	.393	.184
	寄与	4.827	3.126	2.418	1.964	12.335
	寄与率	14.627	9.473	7.327	5.952	37.424